

# キャンパス散策 (松江工業高等専門学校)



松江工業高等専門学校（通称、松江高専）は、1964年（昭和39年）4月に開校しました。「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」を目的とする国立の高等教育機関です。現在、機械工学科、電気工学科、電子制御工学科、情報工学科、環境・建設工学科の5学科があり、各学科の定員は40名で、毎年、中学卒業後の新入生約200名と、高校卒業後や外国から4年または3年への編入生若干名を迎えています。これまで5,400名を越える卒業生を社会に送り出してきました。

工業高等専門学校では、5年間の一貫教育に専攻科2年間の教育を加え、幅広い教養を持ち、専門領域における基礎的・基本的な学力と発想力が豊かで実践的な応用力を身につけた技術者を養成しています。また、本校では、自ら学習する意欲をもち心身ともに健全なたくましい社会人になることを期待し、「学んで創れるエンジニア」の育成を教育目標に掲げています。

(ま)「学んで」教養、技術の基礎、対話力を身に付け、自己を向上させようとする姿勢  
(つ)「創れる」さまざまな視点から対象を観察し、新たな形を創りあげようとする意欲  
(え)「エンジニア」世界市民として、社会に貢献し環境を考え、技術の進化に挑戦する意志

さらに、本校では、学生の教育の他に、研究生や聴講生の受け入れ、中学生を迎えるオープンキャンパス、公開講座の実施、図書館の公開、共同研究の受け入れ、技術相談などの活動を実施し、地域社会の要請にこたえる努力を重ねています。



## 学生会が主体となって高専祭を開催

11月には、学生会が主体的に企画・運営する「高専祭」が行われます。職員も全面的に協力し、各学科の特色を生かした科展示の他、イベントや模擬店など、内容は盛りだくさんです。イベントの多くは、校舎2棟と3棟の間に設けられた、約800m<sup>2</sup>のガラス屋根アトリウム（通称、学びの庭）で行われます。ウッドデッキのステージ上では、学生会スタッフが司会・進行・裏方のすべてをこなしてイベントを盛り上げ、地域の方々をはじめ、多くの人でにぎわいます。



高専祭風景

## 高専ロボコン全国優勝

2004年11月に武道館で行われた、高専ロボコン全国大会において、本校のロボコンチーム「それいけアルゴン」が、初優勝を飾りました。教員の指導の下、校内審査・校内対決を経たチームは、中国大会を勝ち抜き、全国制覇。1年から5年までが参加したチームは、実験室で日夜製作に励みました。



「それいけアルゴン」チーム



システムの紹介

## プログラミングコンテスト文部科学大臣賞

2004年には、プログラミングコンテスト課題部門で、「私のパスガイドさん」が文部科学大臣賞（最優秀賞）を受賞しました。専用小型端末を使った路線バス利用支援システムで、実際のバス会社の方も来校され、注目されています。システムを紹介するパネルなどは、ロボコン優勝マシンとともに、地域共同テクノセンターに展示されています。

## ISO14001 取得

本校は、2005年、学校全体を対象としては高等専門学校初となる、ISO14001の認証を取得しました。日課時間に清掃時間を設けるなど環境教育を充実させ、ゴミの低減や省エネルギーに努めることで、職員・学生一体となって「エコキャンパス」の実現と維持に意欲的に取り組んでいます。



ISO14001 登録証授与式



説明、授業を受ける中学生

## オープンキャンパス

8月には、中学生を対象としたオープンキャンパスを実施します。学校説明に加え、体験授業を実施して、本校の教育システムを紹介しています。



寮祭（焼肉パーティー）

## 直野寮

本校では、400名以上の学生が敷地内にある直野寮で生活しています。寮では、各室にLAN配線が設置されている他、寮生勉強会の実施など、ハード面でもソフト面でも生活をサポートしています。



寮生活の様子



第7号館（女子寮）

## 専攻科の充実

2002年4月に設置された専攻科では、専攻科棟の中に専攻科生の学生研究室が設けられています。専攻科の学生たちの、昼夜を問わない研究活動の拠点としての環境を提供しています。



専攻科棟および学生研究室

## メディア教育センター

本校で開発したLAN環境を活用する英語学習システム「Web-CALL」や、「Net Academy」が整備されており、授業や自主学习で利用されています。



授業風景

また、校内5か所にプラズマディスプレイが設置されています。授業変更連絡、学生の呼び出し、イベント情報、各種連絡等の最新情報が、LANを通じて掲示されており、学生に情報発信されています。

## 海外の大学と学術交流協定

本校では、2004年6月、中華人民共和国にある、武漢科技大学中南分校、および武漢大学東湖分校と、それぞれ国際学術交流協定を結びました。これにより、学生の交流促進を支援する環境が整いました。



交流協定調印式